

第2回 中等日本語教育授業教案コンテスト

教 案

【注意事項】

※項目は全て埋めてください。

※実際のクラスを想定しながら、学生に対する指示や説明、やり取りの言葉など詳しく書いてください。

※授業時間は、1コマ40～45分です。

※教案は日本語で書いてください。

使用教科書： 『新界標日本語総合教程』（復旦大学出版社）第1冊 第7課 （全8コマの内、本教案は3コマ目） 1コマ40分 【要選択】（ <u>高校</u> ・ 中学 ） <u>1</u> 年 クラスの人数 <u>18</u> 人 【要選択】 <u>第一外国語</u> 第二外国語 課外活動 その他（ ） 日本語学習歴 <u>0.5</u> 年				
この授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ● 言語能力：上海の変化について、簡単に話すことができる。 ● 文化意識：上海の変化を紹介するビデオ、図、会話などを通して、変化を理解することができる。 ● 思考の質：変化を表す文型に気づき、上海の変化についての会話の構成を分析することができる。 ● 学習能力：既習関連語彙を選別し、ペアで上海の変化について話し合うことができる。 				
この授業の学習項目 1. イA-くなりました 2. ナA-になりました				
時間	段階 (授業の流れ)	練習・活動の内容(詳しく書いてください)	練習・活動の目的	注意点・使用するもの
3分	導入	① ビデオを見て上海の変化を実感してみましょう。 ② 上海の変化は大きいですね。このような変化を姉妹校の日本人の友だちに紹介するとき、どう言いますか。	上海の変化を理解し、日本語で上海の変化を表現したい気持ちを喚起する。	使用するもの：自作ビデオ『上海の変化』
4分	文型の気づき	① まず音声を聞きましょう。 ② 音声をもう一度聞いて、___にことばを書きましょう。 ③ 変化を表すとき、どんな形を使っていましたか。PPTにあるタスクシートの内容をみんなで読み上げ、下線部の内容を確認しましょう。	変化を表す文型に気づく。	使用するもの：タスクシート 注意点：飛び込む形式で、「Aの語幹」、「く」/「に」、「になりました」の部分を順番に提示する。
2分	文型の確認	① 変化を表す単語は何ですか。 ② イ形容詞とナ形容詞はそれぞれどう変わりますか。 イA- <u>い</u> くなりました <u>広</u> くなりました <u>よ</u> くなりました	変化を表す文型の文法形式にさらに注目する。	生徒に言ってもらいながら、形式を板書する。

		ナ A-になりました 便利になりました								
5分	文型の練習	① PPTにある形容詞で練習しましょう。 ② PPTにある対照図や動態図を見ながら、その内容について述べましょう。	段階的に、変化を表す文型を定着させる。	生徒の言語能力の異同を意識しながら進めていく。						
6分	会話の構成の分析と整理	① 今は一つの文で変化を言いましたが、日本人と上海の変化について話し合うときにどう言いますか。音声をもう一度聞きましょう。 ② 音声を聞きながらシャドーイングしてみましょう。 ③ 会話で日本人と交流する際、どのように変化を詳しく紹介し、それについて話し合いますか。PPTにある言葉に注目しながら、内容の構成を分析してみましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <table border="1"> <tr> <td>上海は</td> <td>交通は</td> </tr> <tr> <td>前は</td> <td>今は</td> </tr> <tr> <td>地下鉄が</td> <td>道も</td> </tr> </table> </div> <p>T: 水田さんの発話の「上海は」と「交通は」はどんな関係ですか。「上海」と「交通」にハ、ガ、ノ、ヲなどをつけてみましょう。 S: 上海の交通/上海は交通が T: では、「上海は」と「交通は」で会話の内容がどう進みましたか。 S: 詳しくなりました。(詳細になりました。) T: 李さんが水田の質問に答えるとき、どのような時間を表す表現を使いましたか。 S: 「前は」、「今は」を使いました。 T: そうですね。変化を表す時に、よく使いますね。では、「地下鉄が」できました」と、「交通は便利になりました」はどんな関係ですか。 S: 例子。(例えば) T: そうですね。例ですね。じゃ、「道も」広くなりました」と、「交通は便利になりました」はどんな関係ですか。 S: 例です。</p>	上海は	交通は	前は	今は	地下鉄が	道も	シャドーイングで会話の内容に対する理解を深める。 言語形式を通して、会話の構成に目を向くように導き、会話の構成を分析する。	ターン1と「ターン2」を分ける際、水田さんの2回の発話にあるトピックを表す「Nハ」に注目するようにヒントをあげる。また、「詳しい」という答えが出ない場合は、教師から「多い」「詳しい」「正しい」「豊か」「詳細」など形容詞でヒントをあげる。 ターン2内部の構成を分析する際、「前は」「今は」、「地下鉄が」「道も」などに注目するようにヒントをあげる。
上海は	交通は									
前は	今は									
地下鉄が	道も									

		<p>④ PPT を見ながら、みんなで会話の内容の構成を整理しましょう。</p> <p style="text-align: center;">ターン 1</p> <p>水田：上海はどんな町ですか。 1-1 話題</p> <p>李：大都会ですよ。にぎやかで大きい町ですよ。 1-2 その返事</p> <p style="text-align: center;">ターン 2</p> <p>水田：交通は便利ですか。 2-1 詳しい話題</p> <p>李：はい。 2-2 その返事 便利になりました</p> <p style="text-align: center;">2-2-1 変化後の今の状況</p> <p>前はよく渋滞しましたが、 2-2-2 前の状況</p> <p>今は地下鉄ができました。 2-2-3 今の例 1</p> <p>道も広くなりました。 2-2-4 今の例 2</p> <p>水田：そうですか。 2-3 相づち</p>		<p>構成を整理しまとめる際、抽象的な言い方にこだわらなくていい。生徒にキーワードを言ってもらいながら、PPT で構成を提示する。</p>
8分	会話の作成と練習	<p>① 整理した構成を使って、既習関連語彙表を参考にしながら、姉妹校の日本人の友だちと会話するつもりで、ペアで上海の変化についての会話を作りましょう。</p> <p>② 会話を作成する際、それぞれタスクシートにキーワードや文を書きましょう。</p> <p>③ 作成した会話をリハーサルしましょう。(最後の2分)</p> <p style="text-align: center;">ターン 1</p> <p>A: 上海はどんな町ですか。 話題</p> <p>B: 大都会ですよ。イ A1/ナ A1 町ですよ。</p> <p style="text-align: center;">ターン 2</p> <p>A: N1 はイ A1/ナ A1 ですか。 詳しい話題</p> <p>B: はい。</p> <p>① (N1) 変化後の状況 文型使用</p> <p>② (N1) 前の状況</p> <p>③ N2 今の状況例 1 文型使用</p> <p>④ N3 今の状況例 2 文型使用</p> <p>A: そうですか。</p>	<p>roleplay の形で、分析した会話の構成を使って、文型を運用する。</p> <p>既習関連語彙表を選別し、相手の内容に合わせて答えたり、質問したりすることで、会話能力を養う。</p>	<p>使用するもの：PPT（会話の構成を提示する）； プリント（既習関連語彙表）； タスクシート。</p> <p>注意点： ①～④を話すのが難しい生徒は、前の状況を今の状況だけでもいい。 また、もっと話したい生徒は例を 2 文以上話してもいいが、5 文以内に控える。</p>

9分	会話の発表と評価	<p>① タスクシートを見ないで、みんなの前で role-play しましょう。</p> <p>② 自分以外の 8 ペアを評価表で評価しましょう。 まず、発音、内容、表現力、礼儀の面から ABC でランクづけ、いいところをメモします。それから、8 ペアが発表した「上海の変化」を指定箇所にメモします。最終評価は、他人につけてもらった ABC のランクと、自分が他人の内容についてメモした内容の両方を合わせ、先生がします。</p>	<p>本課の 4 つの到達目標を最終チェックし、総合能力を発展する。</p> <p>ランクづけだけでなく、メモすることで、他人の発表を本当に聞くことを確保する。</p>	<p>使用するもの： 評価表 注意点： 各ペアの発表後、時間を見ながら、適宜フィードバックする。 他人が発表する際、メモすることを強調する。</p>
3分	まとめと宿題	<p>まとめ： ① 変化を表す文型（板書参考） ② ビデオ、図などで上海の変化を実感し、文、会話などで、上海の変化について述べることを練習しました。 ③ 自分の発表に満足していますか。いいところとあまりよくないところを考えてくださいね。</p> <p>宿題： 高校に入ってからの変化をテーマ、ペアで会話を作って音声形式で提出してください。</p>	<p>要約することで、授業内容を整理する。自分の発表を反省させ、反省内容を宿題に生かせる。</p> <p>異なる場面の運用で、学習項目を活性化する。</p>	<p>タスクシートと評価表を回収する。</p>

工夫点・アピールポイント（どの部分に力を入れて作成したか、どの部分に注目してほしいか など）

- ① 授業内容に合わせたビデオの作成：学習者の表現したい気持ちを喚起するため、導入材料に工夫を凝らし、学生の関心領域、認知能力に合わせたビデオを作った。
- ② 会話内容の抜粋：テキスト内容では、本課のターン1とターン2の前後にも会話内容があるが、学習項目を集中させるため、ターン1とターン2の部分を選び抜いた。
- ③ 文法形式への気づき：タスクシートの穴埋め、PPTの提示方法などで、形式に注目させた。
- ④ 学習項目への達成手段の多様性：形式への気づき→規則のまとめ→活用練習→短文練習などで文型を学び練習し、会話の構成の分析→会話の作成→会話の発表などで会話の運用練習をすることで、漸進的に学習項目を達成させた。（アウトプット形式の多様性を重視することでもある）
- ⑤ 会話構成の分析への導き：ひたすら分析するのではなく、シャドーイングでインプットし、内容理解を深めました。その上で、言語形式に注目しながら、分析を促した。
- ⑥ ペアでの会話作成と事前練習：2人での協働作業を通して、全員発表でき、相互学習の場を提供できた。発表の前にリハーサルすることで、発表の効果を確保してみた。
- ⑦ 発表の評価手段：単なるランクづけだけでなく、メモすることで、他人の発表を聞くことのように導き、学習項目が達成されたことを確認した。
- ⑧ 生徒の日本語力、学習力の異同への配慮：活用練習と短文練習では段階性を意識し、会話練習では異なる産出を認めた。会話の作成では、既習関連語彙表を提供し、力の弱い生徒も会話の作成に参加できるように工夫した。

研修会でどんなことを学び、どのように授業に活かしたか。

参加年：2018年 / 研修会名：2018年春季全国中等日本語教育教師研修会

林洪先生の講座について「高校日本語課程標準」学び、使用場面を意識し、生活場면을喚起しながら言葉の学習を進めることの大切さを実感した。授業では、導入の部分、会話の作成の部分に取り入れた。また、林洪先生が詳しく紹介された日本語学科の核心素養の四方面を授業に取り入れた。

高崎三千代先生の講座で「読解授業のデザインと実施」について学び、読解授業は前作業、本作業、後作業に分けられることを学んだ。そのうち、とくに本作業で紹介された「二つの読み方」を授業に取り入れた。詳しく言うと、「文法や文型の使い方や意味を確認しながら読む」ことを文型の気づきの部分、「大切なことばや文を捜しながら速く読む」こと、「速読だけ、熟読だけではなく、目的に合わせて二つを組み合わせる」ことを、会話構成の分析と整理の部分に取り入れた。

李家祥先生の講座で「核心素養の育成を目指す読解教学」について学び、学習者の主体性を重視し、積極的に思考するように導き、思考する場を提供すべくこと、協働作業で学習する際、学習者の参与と貢献度を重視することを学んだ。授業では会話の構成の分析の部分、会話の作成と練習、会話の発表の部分に取り入れた。

※2 ページ以上になってもいいですが、項目は変更しないでください。